

農地中間管理事業評価委員会の意見について

1 開催時期及び手法

令和3年5月31日(月) 13:15~15:15

(公財)三重県農林水産支援センター会議室から各委員とオンラインによる会議(一部委員はセンターにて出席)

2 評価委員の氏名等

所属・役職	氏名
三重大学大学院 准教授	中島 亨
三重県担い手ネットワーク代表	大野 博司
三重県稲作経営者会議会長	南出 紀光
税理士・農業経営アドバイザー	濱口 勝志
司法書士・行政書士	鈴木 尚文
三重県中央農業改良普及センター 所長	竹田 久夫

3 議事事項

- ・令和2年度事業実施状況と今後の対応について(報告)
- ・報告に対する意見及び評価

4 評価委員会の意見等

(1) 令和2年度事業の実績について

令和2年度は、担い手との意見交換、事務手続きの簡素化、円滑化事業からの切替促進等に効果的に取り組んだ姿勢や、目標面積の700haに対する実績が489ha(達成率70%)と近年では大きな成果があったことを評価する。

しかしながら、目標数値に届いていないことからより一層、出し手・受け手への制度の理解促進や円滑化事業からの切替率の向上等に向けて関係機関と連携し取り組んでいく必要がある。

(2) 今後の推進に向けて

条件不利地域の担い手不足については、今後一層課題になると思われることから、集落と担い手のマッチングに継続的に取り組むとともに、農地の集約化を図る等の担い手が農地を活用しやすい取組も進めていただきたい。

また、出し手への対応も重要な検討事項であり、一部の出し手の意向で営農にかかる地域の合意形成が図れない事例も発生しており、地域全体の利益の妨げになることから、合意形成が難しい場合の対応や措置について機構だけでなく県においても検討されたい。

さらに、営農条件が劣悪な農地であったために担い手からの申出により合意解約に至った例があるとのことについては、トラブルの原因になりかねないことから、今後は、未然に防ぐよう取り組んでいただきたい。